

氏名(本籍)	廣瀬 淳一 (高知県)		
学位の種類	博士 (学術)		
学位記番号	甲第 395 号		
学位授与年月日	令和 5 年 3 月 17 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項		
研究科・専攻名	工学研究科・基盤工学専攻		
学位論文題目	Exploring pathways to achieving the SDGs: Empirical analyses of wellbeing and cooperative behaviors for current and future generations (SDG s 達成への道筋を探る: 現在と未来の世代のウェルビーイングと協調行動の実証分析)		
論文審査	(主査) 高知工科大学	教授	小谷 浩示
	高知工科大学	教授	小林 豊
	高知工科大学	准教授	矢内 勇生
	立命館大学	教授	柿中 真
	武蔵大学	教授	田中 建太

審査結果の要旨

1. 論文の評価

各審査員から概ね良い評価、そして、合格で良いとの判断をして頂いた。その評価を裏付ける様に PLoS ONE と Economics of Disasters and Climate Change と云う学術雑誌に 2 本論文が掲載済み、そして、最後の 1 本も現在学術雑誌に投稿中である事も確認された上で、幾つかの修正提案がなされた。矢内先生からは、結果の解釈を SDG と繋げようとし過ぎない様に、そして、より一般化出来る方向性で博士論文を修正すべきでは、と云う指摘があった。

小林先生からは、Married、若しくは、Autonomy 等が媒介変数として機能する可能性、そして、scientific literacy をデータとして分析した際にどの様な具体的意図や解釈がなされるのか、指摘と助言があった。柿中先生からは、統計分析の箱ひげ図についての統計有意性や回帰分析の Reverse Causality の可能性について、指摘と助言があった。

田中先生からは、Generativity と Wellbeing が inquisitiveness や autonomy を媒介にし、どの様に上昇し得るのか、又、どの様な教育制度や社会政策によりそれらが実現し得るのか、博士論文でより具体的な discussion を展開すべきでは、との指摘があった。

上記の助言と指摘は各々のを得たものであり、これらに対応する形で博士論文の最終稿を仕上げる予定で廣瀬氏を指導する。但し、各先生方も概ねの評価として博士号相当の論文を書き上げた、と認めた上での更なる改善の為の上記助言と指摘であるとの事であった。

2. 審査の経過と結果

- (1) 令和 5 年 1 月 11 日 5 名の審査委員のもと協議され、博士後期課程委員会で学位論文の受理を決定した。
- (2) 令和 5 年 2 月 14 日 公開論文審査発表会及び最終試験を実施した。
- (3) 令和 5 年 3 月 3 日 博士後期課程委員会で学位授与を可とし、教育研究審議会で承認された。